日本基督改革派 教会CS誌 いずみのひろば はじめの人と一緒に読んでください。

いずみのひろば

2026年11月号
日本基督改革派教会
NO.573 教会学校



「体のよみがえり、永遠の命を信ず」　ヨハネ 11:28-44

ユダヤの国ベツレヘムに近いベタニアという町にマルタとマリアとラザロという三人の兄弟が住んでいました。ところが一番下の弟のラザロが重い病気にかかってしまいました。お姉さんのマリアとマルタは一生けんめい看病しましたが、ラザロは死んでしまったのです。マルタとマリアは、イエス様がおいで下さればラザロの病気がよくなるにちがいないと思い使いをやりました。

その頃イエス様はベタニアから遠く離れたヨルダン川の向こう側にお弟子さんたちと一緒におられました。イエス様はお使いの人が帰ってからも二日間もそこに留まっておられました。それから立ちあがられて、「さあ、これからユダヤのベタニヤへ行こう！」とおっしゃいました。

イエス様がラザロのお家においでになったという知らせがあったので、マルタはすぐに家の外に出てお迎えに行きました。そしてイエス様のお顔をみるなり言いました。「もう少しはやく来て下されば、ラザロは死ななかったでしょうに！でも神様にお願いすれば、どんなことでもきいて下さると私は今でも知っています。」するとイエス様は、「私を神様の子どもだと信じている人は死なないのです。私は死んでもまた生き返るからよみがえりです。生命です。」とおっしゃいました。マルタは「はい、あなたは神様の独り子のキリストとしてこの世にお生まれになったことを信じています」とお答えしました。

その時マリアもマルタに呼ばれてイエス様のところに飛んできました。イエス様は皆の悲しみをごらんになって目に涙を浮かべて「ラザロはどこにいますか？」とお聞きになりました。マルタとマリアはイエス様をお墓に案内しました。お墓の入り口は大きな石でふさがれています。「さあ、この石をどけなさい」とイエス様はおっしゃいました。「イエス様、ラザロは死んでからもう四日もたっています。きっと臭くなっていますから‥」とマルタは言いました。「マルタ、もう忘れたのか？わたしを信じれば神様の光をみると話したところではないか」とイエス様がおっしゃいました。そして石がどかされ、お墓の入り口が開きました。

イエス様はお墓の入り口の前に立つと、天のほうをみてお祈りをされました。そしてお墓の奥に向かって大きな声で「ラザロよ、出ておいで！」と呼びかけられました。するとどうでしょう！！身体に巻いた布をつけたまま、ラザロが立ち上がって出てきたんです！イエス様は言われました。「その布をほどいて家へ帰らせなさい！」

イエス様は、愛するラザロさんのことを死んだままにせず、よみがえらせてくださったのです。

イエス様は私たちのことも愛して下さっています。ですから、私たちにも必ず、よみがえりの命、永遠の命を与えてくださいます。私たちはそのことを信じるのです。

（おはなし　林　和子先生）